EBARA IR Day 2022　7月8日（金）9:30～11:30

荏原のエネルギービジネスと脱炭素社会に向けた取り組み



細田　修吾
IR担当執行役
グループ経営戦略・経理財務統括部長



宮木　貴延
執行役
風水力機械カンパニー コンプレッサ・タービン事業担当
兼　Elliott Company CEO



塚本　輝彰
CP水素関連事業プロジェクトマネジャー

【スケジュール】
9:30　開始
9:45　セッション１　コンプレッサ・タービン事業の現状と脱炭素化に向けた取り組み
　　質疑応答

10:30　休憩（10分）

10:40　セッション2　荏原グループ全社で共創し、実現させる水素サプライチェーン構築への取り組み
　　質疑応答
11:30　閉会

Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

長期ビジョン「E-Vision2030」～2030年におけるありたい姿～

5つのマテリアリティ

1. 持続可能な社会づくりへの貢献
2. 進化する豊かな生活づくりへの貢献
3. 環境マネジメントの徹底
4. 人材の活躍促進
5. ガバナンスの更なる革新

アウトカム



2030年のありたい姿

社会・環境価値

事業を通じた社会課題の解決

- **CO_2約1億トン相当の温室効果ガスを削減**
- **世界で6億人に水を届ける**
- **ICAC5への寄与…14Åへの挑戦**

経済価値

ROIC 10.0%以上

売上収益 1兆円規模

企業価値向上

時価総額 1兆円

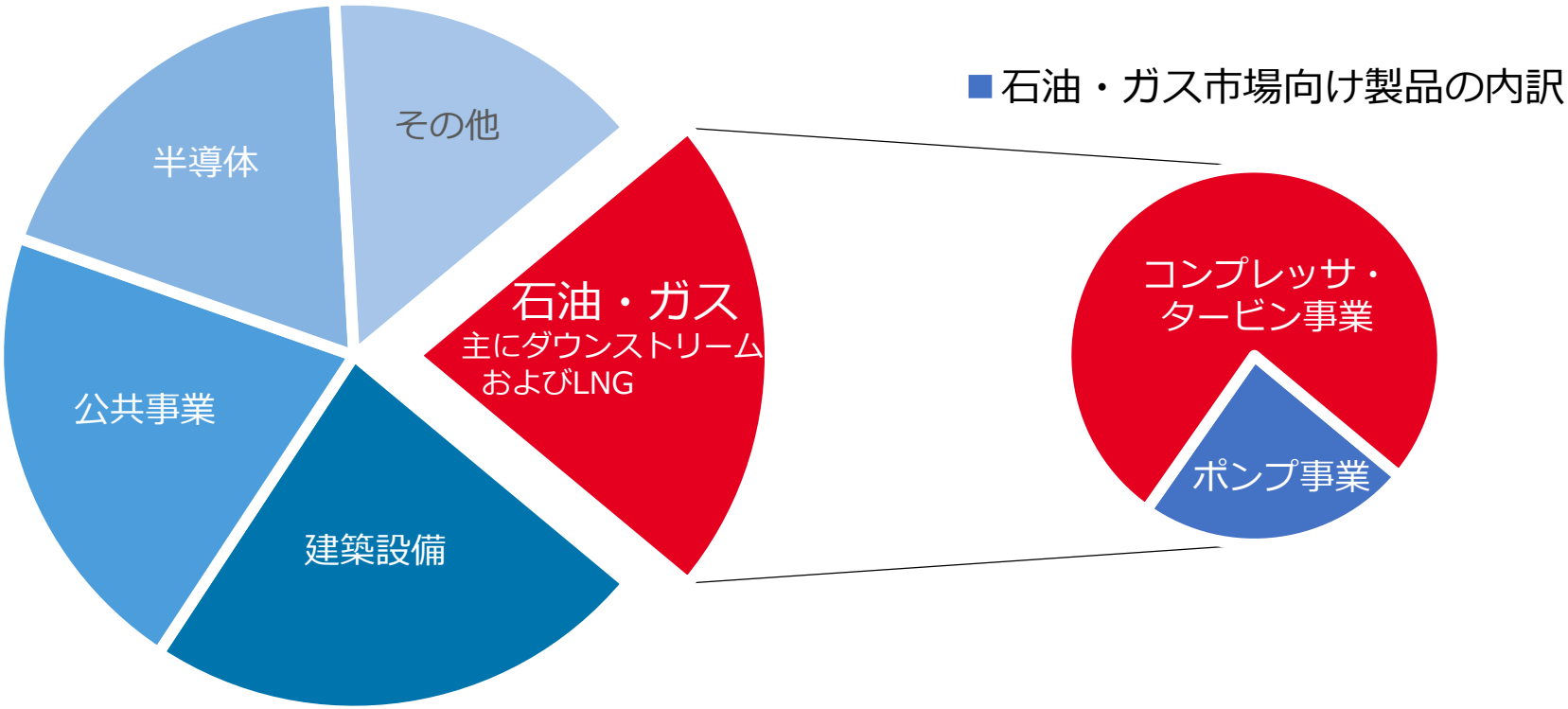
Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

Looking ahead, going beyond expectations
Ahead > Beyond

産業別売上収益構成

- 石油・ガス市場向けの売上収益は連結全体の約20%を占める
- 当社にとって、脱炭素化に向けた新エネルギーの普及と石油・ガス市場の変化は、得意とする特殊流体（気体/液体）圧送技術・ノウハウを通じ、新たな成長機会となり得る

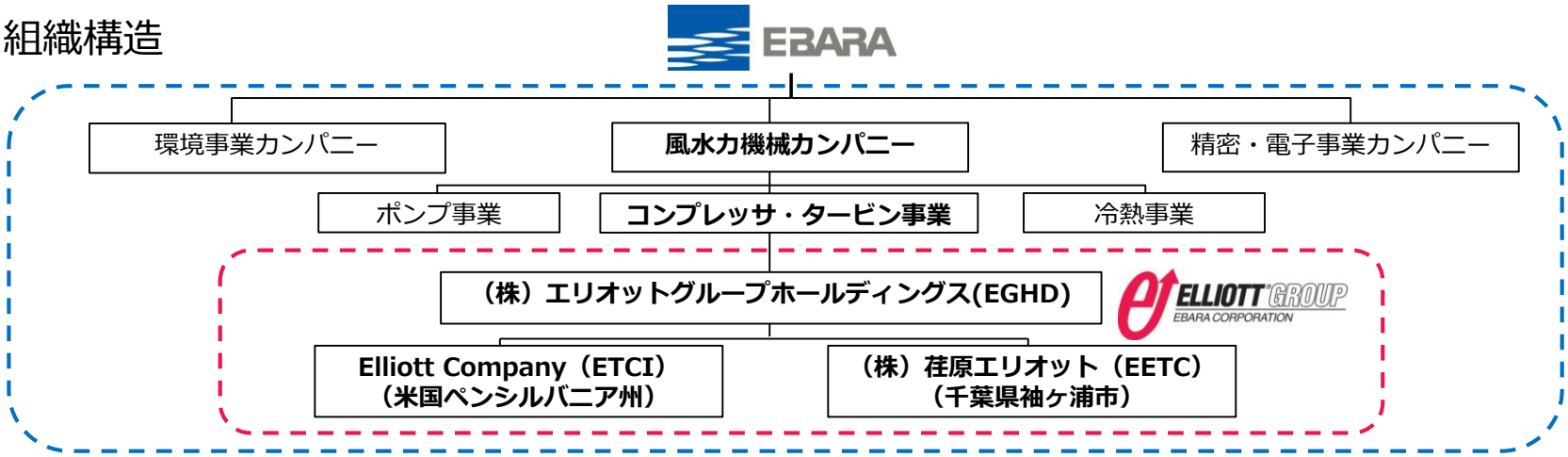
FY21　売上収益構成　連結売上収益　6,032億円（IFRS）



Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved
Looking ahead, going beyond expectations
Ahead Beyond

セッション1について～荏原とエリオットカンパニー～

■組織構造



■沿革

1912年：創業　あのくち式機械事務所設立

1920年：(株)荏原製作所設立

1968年：Elliott Companyとコンプレッサ・蒸気タービンに関する技術提携

2002年：(株)荏原エリオット設立

1910年：W.S.Elliottにより創業。米国ピッツバーグにElliott Company設立。

1957～1987年：Carrier社の資本傘下に。Carrier社の冷凍技術によりLNGやエチレンプラントの圧縮技術の世界的なリーダーへ。

ライセンスに基づく協働

2000年：米国　Elliott Companyを100%子会社化

2011年：エリオットグループホールディングス（株）設立。日米経営統合し、コンプレッサ・タービン事業を統合経営。

2018年：クライオポンプ事業をエリオットグループへ移管

Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

セッション2について～水素関連プロジェクト～

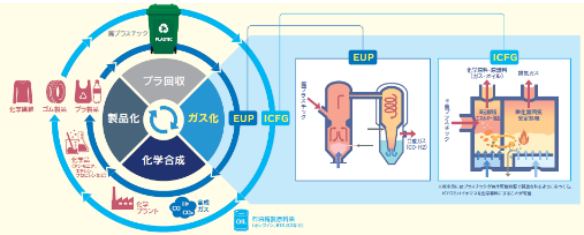
■2021年8月に社長直轄の水素関連プロジェクトが発足

つくる
カーボン
ニュートラルな
水素製造へ挑戦

はこぶ
すべての輸送方式に
不可欠な技術を提供

つかう
大規模集約型から
地域分散型の利用へ

◆廃プラなどからのガス化水素製造
- EUP（Ebara Ube Process）
- ICFG®（内部循環流動床ガス化システム）



◆水素を圧縮・移送する技術
- コンプレッサ

◆超低温の液体を運ぶための技術
- ポンプ



NEDOの水素社会構築技術開発事業に参画、2022年技術実証予定

◆大規模水素発電向けの技術
◆水素ステーション向けの技術
◆ロケット用ターボポンプの技術
- ポンプなど



Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved
Looking ahead, going beyond expectations
Ahead > Beyond

本資料に記載されている業績予想・計画ならびに将来予測は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び、将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved